1年間の主な行事日程

2016年	4月	4日	第52回入学式
		5日	新入生歓迎イベント
		6日	新入生オリエンテーション（～4/8）
		11日	前期授業開始
		15日	授業公開講座「簿記原理Ⅰ・Ⅱ」（全30回）
	5月	21日	春期教養講座「TPPを再考する　―地域再生とTPP―」
		28日	春期教養講座「戦後日本経済の歩みから学び直す「経済の見方」」
	6月	18日	オープンキャンパス（第1回）
	7月	30日	オープンキャンパス（第2回）
	8月	1日	AO入試〈A日程〉面談申込受付開始（～9/30）
		2日	前期授業終了
		3日	前期試験開始（～8/9）
		10日	夏季休業開始（～9/23）
	9月	15日	授業公開講座「社会福祉論」（全16回）
		19日	学園創立記念日
		26日	後期授業開始
			授業公開講座「社会学」（全12回）
	10月	1日	オープンキャンパス（第3回）
		3日	AO入試〈B日程〉面談申込受付開始（～12/22）
		16日	大学祭（10/17大学祭振替休日）
		22日	試験入試（特別奨学生の選考を含む）〈A日程〉
	11月	5日	秋期教養講座「箱館・夢のまち」
		19日	編入学試験〈A日程〉
			指定校推薦入試、一般推薦入試、専門学科・総合学科推薦入試〈A日程〉
		26日	秋期教養講座「ドラマに見る経営学」
	12月	10日	本学主催業界研究会・就職懇談会（函館）
		26日	冬季休業開始（～1/10）
2017年	1月	5日	AO入試〈C日程〉面談申込受付開始（～3/15）
			センター試験利用入試〈A日程〉（～1/27）
		10日	冬季休業終了
		11日	後期授業再開
		27日	卒業論文提出締切
		31日	後期授業終了
	2月	1日	後期試験開始（～2/7）
		2日	編入学〈B日程〉、社会人入試・シニア入試
			試験入試（特別奨学生の選考を含む）〈B日程〉
		13日	センター試験利用入試〈B日程〉（～3/8）
	3月	1日	春季休業開始
		7日	指定校推薦入試、一般推薦入試、専門学科・総合学科推薦入試〈B日程〉
		16日	第49回卒業式
		21日	試験入試（特別奨学生の選考を含む）〈C日程〉
		25日	オープンキャンパス（第4回）
		27日	2・3・4年次オリテンテーション
		28日	2・4年次履修登録
		29日	3年次履修登録
		31日	春季休業終了

函館大学　広報誌編集事務局
〒042-0955 函館市高丘町51番1号　TEL(0138)57-1181　FAX(0138)57-0298

ぽるとさぴえ　2016.August Vol.29　函館大学広報誌VOL・29　発行／函館大学広報誌編集事務局

Contents

●特集　商学一筋50年。新たなる半世紀の挑戦
学長インタビュー（野又 淳司）……1
●創立50周年記念式典・祝賀会……6
●平成27年度商学実習Ⅰ・Ⅱテーマ一覧……7
●函館大学の教育&オープンキャンパス……8
●就職部
平成27年度就職実績……9
がんばる社会人一年生・インターンシップ体験……10
●出身校紹介
北から南から……11
●FROM THE WORLD
日本語や専攻科目を学ぶため、
中国・南開大学浜海学院から函大へ……13
●KANDAI（函大）ing CLUB TOPICS
素早い攻防の中で点を取り合うところが魅力
ハンドボール部……15
相手に伝える力を身に付けよう
弁論部……15
互いに切磋琢磨し、負けない気持ちを大切に
硬式野球部……16
自ら考え、行動できる人間を育成できる指導を
軟式庭球部……16
●Campus Report
長期留学……17
春季派遣留学……18
イベント実行委員会……18
世界学生ハンドボール選手権大会……19
アジアマーケティング研修会……19
新任教員紹介……20
平成28年度の公開講座……21
平成27年度 学校法人野又学園 決算書……21
●授業アラカルト
『経営学総論』専任講師 井上祐輔 先生……22

ぽるとさぴえ Vol.29 2016.August

「ぽるとさぴえ」は、ラテン語のポルトス（港や門を意味します）とサピエンティス（知恵や英知を意味します）を参考にしてつけられた題名です。皆様のご支援と叱咤激励により、親しみやすさのなかにも、大学らしい英知の香りを漂わせる誌面づくりを心がけてまいります。

商学一筋50年。新たなる半世紀の挑戦

学長インタビュー

函館大学は昭和40年に開学し、昨年、節目となる開学50周年を迎えました。そして今、新たなる挑戦の日々が幕を開けます。時代のニーズに合わせて変化を遂げてきた函館大学。今回は、新たな半世紀に向けた本学のビジョンを学長の野又 淳司さんに伺いました。

学長　野又 淳司

INTERVIEW

昨年度、函館大学は大きな節目となる開学50周年を迎えました

学長●本学が開学したのは、ちょうど青函トンネルが着工したのと同じ年。トンネルが完成するまで約四半世紀、さらにそれから四半世紀を経て新幹線が北海道にやってきました。本学はそんな一大事業の流れを函館の地で見てきたわけで、本当に感慨深いものがありますね。そして、その中で函館の観光都市化、国際化などといった、さまざまな変化に対応してきたことが商学部の教育の歴史です。これまで9,000余名の卒業生を輩出し、一定の成果を挙げてきたと思っています。

昨年10月31日には記念式典を開催されましたが

学長●我々としては盛大に行うことができたことを嬉しく思っています。式典には同窓会の方々、また、企業を含めたいろいろな方々からお祝いとご寄付をいただき感謝しております。さらに、私が一橋大学出身でもあることから、式典では一橋大学の前学長である山内進先生にご講演いただきました。ご無理を申し上げたにも関わらず、快くお引き受けいただいたことに改めて感謝を申し上げたいと思います。おかげさまで教職員たちのモチベーションも上がり、「何とかこの式典を成功させたい」という気持ちで取り組んでくれました。実は私の祖父である本学創立者の野又貞夫先生は、東京高商（一橋大学の前身）に進学したかったらしく、私が高校生の時に貞夫先生の奥様である祖母から「あの大学に行ったら、おじいちゃんもきっと喜ぶよ」と言われ、それがきっかけで真面目に勉強するようになったんです。今の自分があるのも、そういう縁があったおかげだと思っています。

50年の函館大学の教育を振り返って

学長●当時、私立大学はほとんどなく、本学は北海道内では5番目に開学しました。地方において、大学という高等教育を展開するに当たり、先人の苦労は計り知れません。本学がこれまでやってこれたのは、「いかに地域に貢献し、卒業生が地域で活躍していくか」ということに主眼を置き、取り組んできたからではないでしょうか。そして子どもの数も増えてきた急増期は、校舎などの環境整備に追われる時代でした。その後は逆に子どもの数が減少するに伴い、教育の質の向上が求められるようになっていきます。大学で自分がどう成長できるのか、やりたいことが見つけられるかなど、入学の目的が変化してきました。そして大学は、それに応える取り組みが求められてきています。

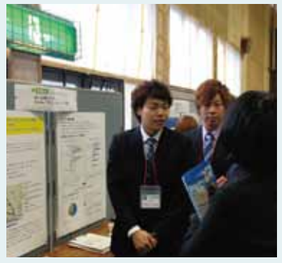
函館大学では先駆け的にさまざまな取り組みをしてきましたが

学長●いかにして学力を上げるか、そして主体性を身に付けてもらうか、という観点では、アクティブラーニングとして商学実習、さらにそれ以前は専攻塾、そして資格・検定にも力を入れてきました。そして今、そのような取り組みが全国的にクローズアップされています。本学が先駆けて取り組んでこられたのは、本学園が高校、専門学校、短大なども運営しており、大学での学びに何が必要なのかが見えるから。子どもたちの生きる10年後を考えて常に一歩先を見ていくことが大切だと思います。

昨年は新学長として、激動の一年だったのではないですか？

学長●教職員には、3つの柱を掲げて取り組んでいきましょうとお話しました。1つは授業の改善であるFD活動の充実、2つめは規律ある大学づくり、そして3つめがアクティブラーニング、地域連携の推進です。FD活動では、教員が互いの授業を見学して真剣に意見を交わし、授業改善に生かしていきました。そしてアクティブラーニングの推進では、今、地域で食の輸出などが大きく動いていることから、新たな取り組みとして、海外に事業展開している地元企業の経営者の講演などを実現。さらに規律の面では、1年生の1講目に事務員が出欠をとり、出席していない学生にその場で電話をします。大人でも誰かに見られていないとダラケてしまうことがあります。ですから、昨年の1年生は出席率が良くなりました（笑）。また、商学部の学びというのは非常に重要なものであるものの、国家資格取得を目的とした学校などと違って見えづらいところがあります。学生たちがほしいのは達成感。そこで、アクティブラーニングでは、勉強をするだけでなく、メディアに取り上げられることも意識しており、それが学生にとって自信につながっています。

最近ではアジアマーケティング研修会が報道されていましたね



学長●地元の新聞やテレビが大きく取り上げてくれました。これは大学としてとてもありがたいことです。地方の大学であっても、このように評価される取り組みができたということを、これからもっと伝えていきたいですね。学生たちも前向きになり、すごくやる気につながったという話を教員から聞いています。また、海外へ行った話を聞いた他の学生が、「自分は英語が苦手だけど、海外でのこのような研修を経験したい」と言っていたそうです。苦手だけどやってみたいという気持ちになるのはとても大事なことだと思います。社会人になっても、得意なことだけやらせてもらえるわけではありません。まだ10代でありながら、苦手なことにチャレンジしたいと思

うのは「偉いな」と感心しました。ちょっと高めのハードルと言いますか、「これをやったら達成感が得られるだろう」ということを大学が準備できるか、そして良い教育につなげていくかがこれからの目標になっていくと思います。

アジアマーケティングは食に関しての研修会。やはり、函館の特性を踏まえた学びに力を入れていくのですか？

学長●食と観光に関しては函館市長も北海道知事も重要だと言っていますね。当学園では調理の専門学校も運営していますから、食分野での地域連携は実績豊富です。一方で、観光はなかなか捉えどころがなく、難しい分野であると思いますので、着実な研究の積み重ねが求められます。今年の8月には、台湾の長栄大学のサマーキャンプに本学の学生を参加させます。これは、本学と学術交流協定を結んでいる長栄大学に、日本を含めたアジア5カ国から学生が集まり、交流するという事業。そこで学生たちには、「ぜひ北海道へ観光に来るようPRしてきなさい」と話しています。さらに、函館には台湾からの直行便があり、たくさんの人が来ています。ですか

らPRだけではなく、何が魅力で来ているのか、どんな人たちが来ているのかなど、いろんな観点から研究ができれば、学生たちにとって大きな学びの機会ともなるはずです。研究を通して自分たちで考えることがどんどん面白く感じられる。そういうことを大学として後押ししていきたいですね。

海外の大学との交流もこれから目的や形が変わっていくのでしょうか？

学長●最近、初めて研修旅行をするとしたら、オーストラリアとアジアではどちらがふさわしいのか、という議論をしたんです。もちろん、どちらも効果はあるのですが、そこで面白いと思ったのは、アジア圏のシンガポールあたりのほうが刺激があるという意見が少なくない。それは、日本と同じアジアという点も大きいのでしょう。近年、大学では学生を海外へ行かせる取り組みが増えてきています。ただし、語学の修得のみを目的とした留学の効果は薄れてきていると感じています。留学においても、これからは今の大学生に必要な主体性や実行力ということを目的としたものに変わっていくことでしょう。英語を使う環境は、日本国内でもできつつあります。国際化により、海外との取引で求められるビジネス上の英語力や積極性など、企業が求める人材育成ができる海外との交流の形を構築していきたいと思っています。

北海道新幹線の開業で期待していることは？

学長●仙台などの北関東からも学生を、と期待したいところではあるのでしょうが、どちらかと言えば危機感のほうが強いでしょうか。さらに、十数年後には札幌まで伸びる計画です。ですから、函館で勉強したいと思ってもらえるような教育をしていくことが重要になると思います。そして函館に「商学部があって良かった」と言ってもらえるようにしていきたいですね。新幹線の効果で、函館を含めた広いエリアが経済的に発展していけば、「ここで生まれ、ここで勉強していても充実した人生が送れるんだ」と思ってもらえることでしょう。新幹線の開業が我々にとっても追い風になるよう、地域の経済界に有為な人材を送り出していきたいと思います。

北海道・函館と本州をつなぐ
北海道新幹線

平成28年3月26日、本州と北海道を結ぶ北海道新幹線が開業。新函館北斗と東京間は最短4時間2分、仙台間は最短2時間30分、そして新青森間が最短1時間1分で結ばれました。

写真提供：JR北海道

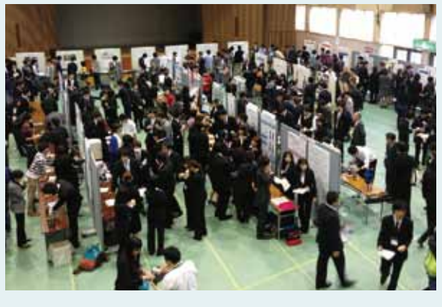
現在、新函館北斗ー東京間の「はやぶさ」は10往復、新函館北斗ー仙台間の「はやぶさ」、新函館北斗ー盛岡間の「はやて」、新函館北斗ー新青森間の「はやて」はそれぞれ1往復が運行し、運行本数は13往復。函館から東北がより近くつながりました。

これからの学生、大学に求められることは?

学長●よく知られているように、ニセコや倶知安エリアでは、オーストラリアやアジアからの外国人が増えています。地方であっても海外企業との取引や外国人との交流が間違いなく増えていくことでしょう。そうなると、外国人とビジネスを実際に形成していく力のある人間が求められます。それに応えられるような教育となれば、商学部のような存在は益々重要になってくると思います。主体性ある態度の備わった学生を育てていくこと、そして知識においても、知るだけでなく、活用する力が問われます。社会で起こっている様々なことに関心を持ち、正しい方法で問題解決しようとする姿勢、すなわち「社会科学の精神」を身に付けてほしいと思っています。

先を見据えた教育を展開していくということですね

学長●今、将棋や囲碁などは人工知能が強くなってきています。あれは機械学習という技術を応用しています。2年ほど前、"The Future of Employment"という論文が発表され話題になりました。ロボットと機械学習によって仕事を奪われそうな職種の中には簿記の事務員・会計監査人、タクシー運転手などが挙げられています。逆に管理職などのマネジメント業務は、奪われそうにない職種とされています。本学では、管理職に必要な知識や技能、考え方などを教育するカリキュラムを実践しており、先生方もその意識を強く持って授業を行っています。しかしその大切さは、なかなか在学中には気付いてもらえません。社会に出て、自分がその立場になってから気付くことが多いのです。繰り返しになりますが、学生たちには「達成感」が必要です。若いうちは、できることを求めてしまう傾向があります。しかし、単純なことがいくらできるようになっても、これからそれが必要とはされない時代が来る可能性は高いと思います。また、目に見える物理的な機械装置の進歩と比べると、目に見えない社会的な制度の進歩は目立たないかもしれません。商学部での学びは、大きな社会問題だけでなく、職場の身近な問題を解決し、よりよい生活をもたらしてくれる、ユニバーサルな学問であると私は思っています。



創立50周年記念式典・祝賀会

函館大学創立50周年記念式典・祝賀会を開催しました

〈式次第〉

◆記念式典
1.学長挨拶　函館大学学長 野又 淳司
2.祝辞
　北海道知事 高橋 はるみ 様
　函館市長 工藤 壽樹 様
　日本私立大学協会常務理事・事務局長 小出 秀文 様
3.祝電披露
4.感謝状贈呈
　名誉教授 永野 彌三雄 様
　第6代学長・名誉教授 河村 博旨 様
　第8代学長・名誉教授 溝田 春夫 様
◆記念講演
1.講師紹介
　函館大学教授・記念式典実行委員長 永盛 恒男
2.講演
　講師　一橋大学前学長・一橋大学名誉教授 山内 進 様
　演題　「とまれ、お前はあまりにも美しい」
　　—漱石・ゲーテ・実学革命—
3.謝辞　函館大学学長 野又 淳司
◆祝賀会
1.学長挨拶　函館大学学長 野又 淳司
2.祝辞
　函館商工会議所副会頭 久保 俊幸 様
　函館国際観光コンベンション協会会長 渡邉 兼一 様
3.鏡開き
4.祝杯　学校法人野又学園 学園長 野又 肇
5.祝宴
6.余興
7.乾杯　函館市議会議員 松尾 正寿 様

平成27年10月31日、函館国際ホテルにおいて函館大学創立50周年記念行事が執り行われました。

第一部の記念式典では、本学の野又淳司学長が冒頭の式辞で「これまで本学が9,000余名の有為な卒業生を輩出することができたのは、函館を中心にした地域の皆様のおかげです。これからも、次の50年を見据え、地域に根ざした教育・研究で数多の工夫を重ね、より一層地域に貢献できる人材の育成に努めます」と抱負を述べ、続いて北海道知事の高橋はるみ様、函館市長の工藤壽樹様、日本私立大学協会常勤常務理事・事務局長の小出秀文様からのご祝辞、祝電披露に引き続き、本学の名誉教授である永野彌三雄、河村博旨(欠席)、溝田春夫の三氏に感謝状を贈呈し、式典第一部の幕を閉じました。

第二部の記念講演では、野又学長の母校である一橋大学前学長(同大名誉教授)の山内進先生をお招きし、「とまれ、お前はあまりにも美しい」—漱石・ゲーテ・実学革命—と題し、講演をしていただきました。

第三部は、函館商工会議所副会頭久保俊幸氏、本学卒業生の函館国際観光コンベンション協会会長渡邉兼一氏によるご祝辞を頂き、野又肇学園長の乾杯の音頭により、300余名が参加する祝賀会が和やかな雰囲気で盛大に催されました。

最後に、本学卒業生で前函館市議会議長・函館市議会議員の松尾正寿氏が乾杯のご発声で祝賀会を終了致しました。

商学実習Ⅰ・Ⅱテーマ一覧

平成27年度（昨年度）商学実習Ⅰ テーマ一覧

田中 浩司 教授
【函館駅前商店街の活性化】
岩田 玲央、御取 皇大、海老塚 耕作、三ツ谷 美帆、宮崎 玲奈
【なぜ函館にリピーターが多いのか】
大澤 翔、小川 千尋、戸井田 航輝

寺田 隆至 教授
【若者の牛乳離れについての研究
―函大生の牛乳消費の実態―】
京野 一砂、齊藤 茉林、釜谷 泰葵、小林 俊己、小関 公貴、
日野 幹太、小林 亮太、伊東 和洋、小野 悟

西村 淳 准教授
【函館にB級グルメを作ろう】
佐野 匠、関 英藍、髙島 将都、高田 彩乃、髙森 美聖
【函館市の人口減少について】
坂本 健登、坂本 大地、鈴木 一匡

大橋 美幸 准教授
【散策・街歩きアンケート】
中村 水紀、土谷 力哉、長島 美玖
【修学旅行と体験学習アンケート】
徳正 涼太、中村 海斗、張 思黙
【若者の観光アンケート】
今田 仁視、戸田 俊介、沼田 紘人

佐藤 元治 准教授
【金沢市内の飲食店への郵送によるアンケート調査】
野宮 隆生、福岡 美輝、前田 怜威、松本 知浩、三浦 啓
【金沢市内の宿泊施設への郵送によるアンケート調査】
釜蒐 真希、福士 誠也、松本 拓海

津金 孝行 准教授
【外国人の函館観光について】
高橋 巧、髙橋 岐明、多田 章真、巽 裕美、田中 俊貴
【函館のイメージに合う食べ物について】
田辺 真悟、千田 魁、塚越 剣、土谷 優茄

井上 祐輔 講師
【函館スイーツ調査】
伊藤 柊太、湊 吹、森永 夢希乃、山崎 友也、渡邉 光郎
【函館の温泉利用者調査】
内木 敬太、南 龍治、吉田 大翔、森 優菜、吉川 なつみ

平成27年度（昨年度）商学実習Ⅱ テーマ一覧

若松 裕之 教授
【『クールクルHokkaidou☆スマホ映像コンテスト』
動画投稿に向けて】
相澤 理樹人、青木 優
【函館の魅力PR～外国人観光客増加に向けて～】
石村 南海子、小山内 裕美
【函館が好きになるCM】
秋野 奏、犬井 良一、竹内 大也、成田 大希
【函館の紅葉～秋】
三浦 悠太郎、三浦 祐一郎

田中 浩司 教授
【ファミリーレストランに対する函館市民の意識調査】
岩本 悠、上井 康弘、長内 宏人、丹野 敬徳、長崎 巧夢
【Amu Bus（アミュ・バス）ルートの提案】
川道 誠也、照井 和樹、本市 拓斗、関根 幹仁

寺田 隆至 教授
【函館市と長崎市の観光比較研究】
田上 貴裕、國安 正矩、工藤 凛、山田 恭士

大橋 美幸 准教授
【ホテルアンケート調査】
岡田 崇裕、加我 凌祐、竹原 滉太、西山 龍也
【函館マラソンアンケート】
木村 明希、西田 里穂子、久末 梨奈、畠山 翔
【新幹線PRイベントアンケート】
新田 耕介、張摩 裕也、藤原 祥智、八河 直樹

西村 淳 准教授
【函館と札幌の認知度調査】
菊地 梨菜、吉原 健斗、小林 琢哉、今 将志、西谷 圭祐、野崎 泰雅
【函館の人口減少と函館に住む若者の地元離れの関係性】
伊藤 篤孝、斎藤 優樹、猿田 航也、清水 翔、下川原 巧輝、福井 卓

佐藤 元治 准教授
【縁結びパワースポットツアー】鹿角 康太
【函館歴史バスツアー ～箱館戦争と土方歳三～】吉田 直輝
【冬の大沼　湖畔の上での体験】晴山 光、月野和 尚史
【函館夜景バスツアー　函館の夜景を堪能しよう!!】
瀬渕 一清、村田 隼也、菊池 香那、小野 彩香、吉田 直輝、前田 陸
【1泊2日で行くノエイン聖地巡礼の旅】
和田 匠永、伊藤 諒

今井 敏博 教授
【北海道新幹線によるメリット・デメリット】
木島 慶貴、柴田 輝
【北海道新幹線の経済効果について】
垣下 一希、垣下 寿人、中田 楓弥

教育＆オープンキャンパス

高評価の独自の教育システムと高い就職実績

入試部長
田中 浩司 教授

本学の第一の特長は、独自の教育システムと、学生による調査・研究やキャリアプランなどを、さまざまな形でサポートする充実した支援体制にあります。

現在では、大学はもとより、高等学校でも、アクティブラーニングという能動的な学修を促す手法が採用されつつありますが、本学では、早くからこの先進的な教授・学修法を採用し、すでに2011年の大手進学予備校河合塾による調査で、高評価を得たという実績をもっております（『日本経済新聞』2011/2/21）。この手法による「商学実習」Ⅰ・Ⅱ（1・2年次）などでの、学生による地域研究や商品開発等のプロジェクトの取り組みが、新聞やテレビニュースなどによって数多く取り上げられ、高い評価をいただいております。

2013年4月に市内の元町エリアに開設した、函館大学ベイエリア・サテライト（ココカフェ）は、地域の企業・市民、観光客との協働的な研究・交流の場として、学生の積極的な研究活動をサポートしています。

本学は、従来から就職に強い大学という評価をいただいてまいりましたが、『週刊ダイヤモンド』（2011/12/1）の「就職に強い大学全国総合ランキング」で、道内限定で第3位、道内私大ではトップ（全国総合で98位）となり、本学の就職実績の高さはお墨付きをいただくこととなりました。その後も高水準の実績を維持しております。

このように、本学のすぐれた教育システムと、高い就職実績は、マスコミからも注目され、高い評価を得るにいたっております。

オープンキャンパス開催のほか、進学相談会にも参加

今年度は、本学主催の受験生向けのイベントとして、オープンキャンパスを4回〈6/18（土）、7/30（土）、10/1（土）、来年3/25（土）〉開催します。

オープンキャンパスでは、本学の教育内容や各種入試制度、就職支援の特色、学費・奨学金の説明、商学系・英語系・一般教養系に分かれたミニ講義、キャンパス見学などのプログラムがあり、本学の最新情報を聞くことができます。当日は、在学生が中心になって、受験生の皆さんをご案内しますので、本学の生の情報を気軽に聞くことができます。このほか、ご希望の方には、当日学食で昼食を楽しんでもらう「無料ランチ体験」もあります。なお、当日は函館駅前から無料送迎バスもご利用いただけます。当日同伴された保護者の皆様には、受験生の皆さんとは別に、実際の時間割・学年暦からみた4年間の大学生活のイメージ、学費のことなどについて情報提供をいたします。個別面談にも対応しますので、お気軽に担当者にお声掛けください。このほか、10/16（日曜日・大学祭）には入試相談会（申込不要・入退場自由）を開催します。時間は10:00～15:00です。入試全般に関するご相談の他、様々な疑問・質問に個別に対応させていただきます。大学祭の雰囲気を見ていただくとともに、気軽にお立ち寄りください。

こうした本学主催のオープンキャンパスなどに都合がつかない方には、函館市、ならびに青森県、岩手県などの各都市で開催されている業者主催の進学相談会に本学も参加しておりますので、お近くの会場にお越しいただければと思います。会場・日時などの詳細は、本学HPをご覧いただくか、本学入試課に電話でお尋ねください。また、これらの機会以外にもキャンパス見学なども受け付けております。こちらを希望する方も事前に入試課までご連絡ください。

じっくりと本学のことを聞いて、自分の眼で確かめ、本学を選んで欲しいと思っております。内外から高く評価されている本学の教育システムと、充実した学生サポート。本学で思う存分、学修・研究に、クラブ活動に打ち込んで有意義な学生生活を過ごし、納得のいく就職を勝ち取ってほしいと思います。

就職部

平成27年度就職実績

CAREER SUPPORT

前年を上回る高い就職率を実現した各種のキャリア支援

就職部長
今井 敏博 教授

平成27年度は経団連の指針により、選考開始時期が後ろ倒し（4月から8月）となり、学生や企業に戸惑いがみられましたが、企業側の求人意欲は、景気回復の背景や新卒採用を控えていた分もあり、非常に高まっています。しかし、意欲は高くても「良い人材だけを採用する」という状況は変わりません。そのような中でも、本学の就職実績は前年を上回る97.7%という高い数字を達成することができました。

また、企業の厳選化傾向は今後も続くであろうと予想されます。そのため大学では、その傾向に対応できる学生を育てていくことが求められております。そこで本学では、就職に向けた様々なキャリア支援を展開しています。

1つ目は、学生への「実践教育」です。11月に企業の人事担当者を招いた「就職模擬面接研修会」を実施し、採用のポイントや受け答えの仕方、面接指導を含めて就職活動に役立つ具体的な実践教育を一日かけて行っています。

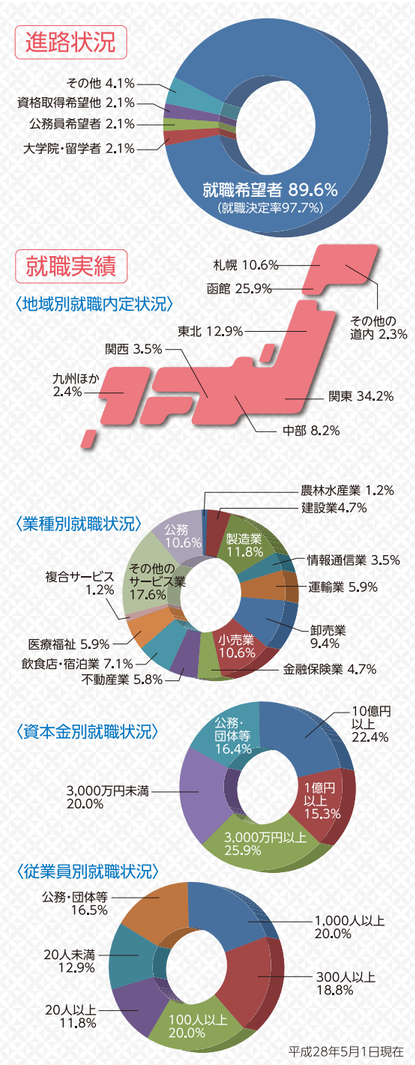
2つ目は「学生へ向けての報告会」です。就職担当教職員が、年間約100社の企業訪問を行い、収集した情報をガイダンスの中で報告することで、学生の就職活動を展開しやすくしております。

3つ目が「就職講座」の開催です。1年次には「キャリアプランニング」（15回）、2年次は「キャリアガイダンス」（15回）、3年次には「就職ガイダンス」（16回）を実施しております。その中には、企業の経営幹部の方を招き「仕事とは?働くとは?」等の講演会も実施しています。

さらに例年12月に開催している「業界研究会」では、60社以上の企業の人事担当者に来ていただき、学生が直接担当者に事業内容や採用情報などの話を聞く有意義な場も設けています。

また、ゼミの担当教員が、学生一人ひとりに対してきめ細かい就職支援を行っているほか、キャリアスタッフによる面接指導、履歴書・エントリーシートの書き方指導なども随時行っています。

キャリア開発課では、就職に関する資料の収集、開示、就職相談を行っており、学生がキャリア・デザインを早期から描くことができるような親身な指導・助言を行っています。



がんばる社会人一年生

FRESHER'S REPORT

今春から新社会人として新たな一歩を踏み出した先輩たち。自身が希望した舞台に立ち、新たなフィールドで活躍しています。

汗と知恵をたくさん出して

（株）桐井製作所勤務
小川　遼 さん
商学部商学科企業経営コース卒
（富山県立高岡商業高等学校出身）

2016年4月14日に起きました熊本地震で被災されました皆々様のお見舞いと、亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げます。

後輩の皆様は何を思いながら日々生活をしていますか?「社会人への準備期間」「将来設計を立てろ」「勉強しろ」など、周りの大人に言われる事が多いと思います。勿論それも大事ですが、私は中途半端になるなら一切やらない方がいいと思います。ご家族や先生方に怒られると思いますが、私はそれを心がけながら学生生活を送っていましたし、社会に出た今も後悔はありません。

私の上司が「汗を出せ、知恵を出せ」とよく言います。これは遊び、勉強、仕事など、どの分野にも当てはまると思います。汗を出すには行動を起こし、知恵を出すには本気で考えます。その積み重ねこそが自分の人格像を確立することになるのだと思います。

学生生活は本当にあっという間です。卒業してから後悔の無い様に学生のうちに失敗し、汗と知恵を沢山出してください。

耳を傾けることが大切ですね

損保ジャパン日本興亜（株）勤務
大原　千明 さん
商学部商学科卒
（函館白百合学園高等学校出身）

私が就職活動でとても重要に感じたことは、何気ない会話にも耳を傾けるということです。第一志望であった札幌の会社は3次選考で不採用通知を貰い、函館で働こうと決心した矢先の先生との何気ない会話が、私の今の会社で働くきっかけとなったのです。「損保ジャパン日本興亜で、エリア職という転勤の無い社員区分があるから受けてみたら?」という声をかけていただき、選考を受けて今の会社で働くことになりました。

就職活動だけではなく、これからの社会生活でも人の話に耳を傾けるということはとても重要なことで、自分の知らない知識だけではなく、他人から自分はどう評価されているのか、ということも知る事ができるのです。私の職種は営業なので、特に言葉遣いや行動などは注意されることもありますが、一つひとつしっかりと耳を傾け、早く会社の戦力として活躍できる人材になりたいと思っています!

商学部商学科
企業経営コース4年
田川　菜奈 さん
（函館中部高等学校出身）

INTERNSHIP

インターンシップ体験

自身の視野を広げ、
就活への大きな一歩に

私は函館新都市病院で医療事務の業務内容について研修し、病院の受付業務・カルテの管理や病棟の情報管理などといった業務について教えていただきました。

研修前の私は、医療事務の業務とは受付での患者さんの対応が主な業務内容と思っていたのですが、研修を受けてみると想像とはまったく違い、大きな衝撃を受けました。医療事務とは医師や看護師と同様、患者さんの健康・回復へのサポートに重点を置き、病名やそれにあった処置方法、処方されるべき薬の種類の把握をし、患者さん一人ひとりの相談に応じることが大切だと学び、研修時に受けた衝撃は、私にとって新たな理解を得るための良い機会となりました。

新都市病院では、本来の医療事務の業務のほか、集中治療室での血液透析や病院関係者以外立ち入り禁止のリハビリ室の裏側、転院・退院のために医師と患者さんが行う相談の場面にも立ち会わせていただき、このたびのインターンシップ期間は病院全体としての業務見学ができ、就活において良い経験になりました。

インターンシップ制度は自身の視野を広げる貴重な機会となり、就活を迎えるための大きな一歩となります。皆さん、ぜひ参加してみてください。

出身校紹介

北から南から

岩手県立久慈東高等学校

私の母校の久慈東高校は、岩手県の沿岸北部に位置しています。県内でも数少ない総合学科高校であり、設置系列は人文科学、自然科学、情報ビジネス、食物、介護福祉、環境緑化、海洋科学の7系列を有しています。

特徴的な部分として、この7つの系列に分かれるのは2年生になってからで、1年生のうちは普通科目を学び、体験授業などを通して自分が目指したい系列に進みます。これによって高校に進学してからでも複数の選択肢があり、専門的な知識を持った先生方に囲まれ、とても良い環境で学ぶことが出来ます。

地域との連携も密で、毎年地元のお祭りに男子生徒は神輿を担いで参加し、女子生徒は踊りを披露します。さらに文化祭にあたる東高祭では、各系列の生徒が地域の皆様へ工夫を凝らしたおもてなしをします。

多様な科目を学ぶ生徒が多い学校で刺激を受け、地域の皆様に温かく見守られることで充実した学校生活を送ることが出来ました。高校時代に学んだことを大学、社会人になっても忘れず、磨き続けていきたいと思います。

商学部 商学科
企業経営コース2年
大澤　翔 さん

岩手県立久慈東高等学校

創立:大正9年　岩手県久慈市門前第36地割10番地
TEL.(0194)53-4371　FAX.(0194)53-2540

**多様な進路希望に対応できる
7つの系列、11の総合科目群を設定**

平成16年度に久慈農林高校、久慈水産高校、久慈商業高校の3校が統合し、総合学科高校として新たにスタート。「地域に根ざし　夢を育み　未来を拓く」学校づくりを目指し、現在は人文科学・自然科学・情報ビジネス・食物・介護福祉・環境緑化・海洋科学の7つの系列、11の総合科目群を設定している。

北海道函館稜北高等学校

私が卒業した函館稜北高校は、2013年に開校30周年を迎えた函館市内の中では新しい高校です。自然豊かな場所に校舎が建っているので、生徒が伸び伸びと学校生活を送ることができる環境が整っています。函館稜北高校の学校祭「稜北祭」では、メインイベントとして「たてうた」を行います。「たてうた」とは、1年生・2年生・3年生各1クラスずつ集まったチーム対抗合唱コンクールです。学年を超え、一致団結して金賞を目指すので、クラスの団結力が高まり、仲間と真剣に向き合うきっかけを作ってくれるイベントです。その他にもクラス発表、模擬店の出店など、自ら行動する大切さを学べる行事です。

私にとって稜北高校で過ごした3年間は、何でも話せる先生方や仲間に出会えた、とても充実した学校生活でした。これからも自ら行動し、仲間と団結することを大切に、大学生活を送っていきたいと思います。

商学部 商学科
企業経営コース2年
森　優菜 さん

北海道函館稜北高等学校

創立：昭和58年　北海道函館市石川町181番地8
TEL.(0138)46-6235　FAX.(0138)46-6236

**基礎力・思考力・実践力、
豊かな人間性を身に付ける**

目指す学校像は「自分の生き方に誇りを持って卒業し社会で活躍する生徒を育てる学校」。授業や総合的な学習の時間に、アクティブ・ラーニング（協同的な学び合い）を積極的に取り入れている。基礎力・思考力・実践力、そして豊かな人間性を身に付けた人材を育成していく。

五所川原商業高等学校

私の出身校である五所川原商業高校は、青森県五所川原市に所在する私立高校で、1954年、五所川原実業高等学院として開校し、1957年に学校法人下山学園五所川原商業高等学校に改組しました。和学・求道・使命を校訓にしていて、昨年、60周年を迎えました。授業の勉強だけでなく、部活動や資格取得にも力を入れている学校です。

私は、軟式庭球部に所属していましたが、部活動で学んだことは今でも役立っています。部活動などで様々なことを学んで素敵な人に成長し、卒業した人がたくさんいます。五所川原商業高校で過ごした3年間は、私自身に素晴らしい青春と、たくさんの経験をさせてくれました。これからも、五所川原商業高等学校の卒業生として誇りをもって、残りの大学生活を楽しみたいです。

商学部 商学科
企業経営コース4年
村上　穂乃花 さん

五所川原商業高等学校

創立：昭和29年　青森県五所川原市大字唐笠柳字藤巻80
TEL.(0137)35-5151　FAX.(0137)34-5151

**「人間力」と「実践力」を身に付け、
さまざま資格も取得できる**

SEコース（スーパービジネスコース）、EXコース（ビジネスコース）、ADコース（進学推進コース）の3つのコースがあり、目的に合わせて学ぶことができる。簿記検定や簿記実務検定、ビジネス文書実務検定など、各種資格取得にも力を入れている。

北海学園札幌高等学校

北海学園札幌高校は1920年に設立され、今年で96年目を迎えます。コースは大きく分けて4つあり、普通科コースは基礎的な授業をした後に小テストなどで実力をつけ、特進コースは国立大を目指し、レベルの高い授業をします。また、現在は自分たちの時にはなかった医療コースとグローバルコースが新しくでき、実際に病院へ行く実習や半年間の留学制度もあるそうです。

そして部活動では、野球部・スキー部・相撲部をはじめとする18のスポーツ系クラブ、吹奏楽部・弁論部をはじめとする14の文化系クラブがあります。特にスキー部や相撲部は全国大会出場など、力を入れている部活動です。

北海学園札幌高校は、生徒と先生の距離が近く、相談したり、たわいない話など、学校にいづらくない環境で3年間を過ごせます。

商学部 商学科
企業経営コース2年
野宮　隆生 さん

北海学園札幌高等学校

創立：大正9年　北海道札幌市豊平区旭町4丁目1番42号
TEL.(011)841-1161　FAX.(011)824-5593

**21世紀のリーダーとなりうる、
国際感覚を備えた人材の育成**

「学ぶことで成長できる。」を第一と考え、「育てる学び舎」を実践。1年時に「Global Village」、2年時には「研修旅行」、3年時には「ボランティア活動」を実践し、さらに個々の才能を引き出すため、2年生から「特進」、「総合進学」、「グローバル」、「メディカル・プレップ」の4つのコース制を導入している。

留学生紹介

FROM THE WORLD

日本語や専攻科目を学ぶため、中国・南開大学浜海学院から函大へ

各々が将来の夢に向かって、函館大学での2年間を過ごします。

函館大学では海外の大学と姉妹校提携し、本学の学生の海外留学を積極的に推進するとともに、姉妹校から留学生を受け入れています。今年度は中国から6名の留学生を受け入れ、彼らは将来の目標に向かって本学で2年間学びます。

日本の文化や言葉に興味があって

Q.函館大学に留学した目的は？

高 昀喬（コウ インキョウ）さん

章さん「日本の文化に興味があり、日本語をもっと勉強したかったからです」

梁さん「私は日本の大学院に進学したくて。そのステップとして留学を決めました」

党さん「僕も同じ。日本語を勉強して、大学院に行きたい。ちなみに、留学の目的とは関係ないけど、趣味は書道です」

程さん「僕は日本の文化に興味があったから。そして、中国で日本のドキュメントなどを観ていて、テレビに映る日本が本当の姿なのか、自分の目で見たかったからなんです」

柴さん「僕も程さんと同じで、日本の和の心にとても興味があり、学んでみたいと思ったから」

柴 翔（サイ ショウ）さん

高さん「私は日本のアニメが好きなんです。ワンピースとかハンターハンターとか。そして日本語が好きになり、日本語をもっと話せるようになりたかったんです」

両親も留学生活を応援してくれています

Q.留学を決めた時のご両親の反応はどうでしたか？

章さん「応援してくれましたね。心配よりも、私の意思を支持する気持ちが大きかったようです」

梁さん「私の両親も『頑張ってきなさい』と送り出してくれました」

党さん「僕の両親も同じ。でも、初めて外国へ行くからちょっと心配していました」

程さん「やっぱり応援の気持ちが強かったですね。でも、こちらへ来て、画像で私の顔を見たら『何キロ痩せたの?』と心配していました」

章 霊慧（ショウ レイケイ）さん

柴さん、高さん「両親が応援してくれているのは、みんな同じだよね」

先生方が優しく、授業内容も面白い

Q.特に興味を持っている授業は何ですか？

章さん「英語です。先生が優しいから。日本語はまだ自分にとって難しいですね」

梁さん「私も先生が優しいので、中国語を日本語に翻訳する原書講読が好きです」

程 毅（テイ キ）さん

党さん「僕はマクロ経済かな。先生が書く漢字がとてもキレイで、話す時もゆっくりだから、その気遣いが嬉しい」

程さん「僕は国際経済学です。これまで知らなかったことを教えてもらい、知識が増えたのが良かった」

柴さん「僕は中学時代から歴史が得意分野でもあったので、西洋経済史がとても好きです。歴史的にもとても興味がある内容なので」

高さん「みんなバラバラの答えだから、じゃあ、私は広告論。先生が優しいし、授業の中身も面白いと思います」

函館は空が青くて空気が美味い

Q.函館のまちの印象はいかがですか？

章さん「空が青いし、キレイな環境ですね。あと、学食で初めてみそ汁を食べたけど美味しかった（笑）」

梁さん「空気が美味しいよね。そして、函館の人たちは情熱的な印象を受けました」

党さん「僕も第一印象は青い空と新鮮な空気。僕の出身地の天津は発展中のまちだから、空気が美味しいと思えないんです」

党 乾（トウ カン）さん

程さん「僕は人口の多いまちにいたから、人が少ないと思った。それと風が強くて、髪型が毎日変わって困っちゃう（笑）」

柴さん「僕は寒いという印象かな。それと気になったのがカラスの数。市の鳥がカラスなのかなと思ったくらいです」

高さん「緑が多いですよね。そしてスーパーの店員さんは、とても丁寧な言葉で話してくれるので、マナーがしっかりしてるなあという印象を受けました」

大学院に進学し、夢を叶えたい

Q.大学卒業後の目標、夢は？

梁 楨（リョウ テイ）さん

章さん「大学院に進学して、小さい頃からの夢だった教師になりたいです。中国に戻って、小学校の先生がいいかな」

梁さん「一度、旅行へ行って気に入った大阪の大学院に進学したいです。その後は中国に戻って企業に就職したいと思っていますが、どんな仕事をするかは、これから学びながら決めていきたいですね」

党さん「日本の大学院に進学して、中国にある日本の企業に就職したいです。貿易関係の仕事がしたいけど、日本語の教師になるのもいいかな」

程さん「僕も日本の大学院に進学したいと思っていました。でも、日本に来てから考え方が変わりました。今は中国に戻って、中国と日本をつなぐ文化関係の仕事に就きたいですね」

柴さん「僕は京都の大学院に入って歴史を学びたい。その先のことはまだ考えていないけど、歴史に関わるような仕事ができればいいですね」

高さん「大学卒業後は大学院に行きたいと思っていますけど、まず身近な目標は、一人でちゃんと暮らせるように頑張ることが第一です」

留学の目的や将来について語ってくれた6名の留学生たち。彼らにとって、大学で勉強するだけでなく、街の中へ出て、その土地の空気や人々にふれることも貴重な経験であり、大きな財産ともなります。みなさん、大学の授業がない週末にはアルバイトをしているそう。アルバイトはお金を稼ぐだけでなく、日本語の勉強やコミュニケーションを磨く上でも役立っているようです。そして、自分たちより先に留学している先輩方の存在も心強く感じています。章さん、梁さん、党さん、程さん、柴さん、高さんは、それぞれ将来の夢や目標に向かって、これからも走り続けます。

CLUB TOPICS

KANDAI ing

内外に函大の元気を発信します!

体育系、文化系とも、部員みんなが情熱を持ってクラブ活動にも打ち込む

インカレでも勝利を目指す函大ハンドボール部。

HANDBALL ハンドボール部

素早い攻防の中で点を取り合うところが魅力

中学からハンドボールを始め、現在は函大ハンドボール部のキャプテンとして活躍する秋山 瑞貴くん(4年生)。「中学の時はただ練習して試合に出ていたという感じでした。ハンドボールのことを深く知ったのは、高校に入ってから」と振り返ります。

秋山くんにとって、ハンドボールというスポーツの魅力は、「素早い攻防の中で点が入る」ところ。さらに、自分が得点を決めた時だけでなく、仲間にパスを出して決めてもらうのも面白いのだとか。「いろんな形のプレーをできるところが楽しいですね」。

さらに、キャプテンとなってからは考えることが多くなり、勝ち負けの重みをより感じるようになったという秋山くん。勝たなきゃということよりも、負けたくないという気持ちが強くなったそうで、自分のことよりチームのことを考えて練習や試合に臨むようになったそうです。

今年のメンバーは昨年のメンバーが土台となっていることから、更なるレベルアップを目指し、秋山くんは全国での活躍を誓います。「全国で勝ち上がっていけば、メディアでも大きく取り上げてもらえると思うので」と、函大ハンドボール部は、スポーツの力で函館のまちを盛り上げていきます。

「社会人としてハンドボールを続けられる環境があれば続けていきたい」と話す秋山 瑞貴くん。
商学科市場創造コース4年
(函大付属有斗高校出身)

函館大学ハンドボール部HP http://kandaihand.jimdo.com

毎年12月に開催している弁論大会。ぜひ、多くの人に来学してほしい。

DEBATING 弁論部

相手に伝える力を身に付けよう

同部の最終目標は、毎年12月に開催している弁論大会です。その大会に向け、普段は呼吸法や話し方などの練習をみんなで集まって行っています。現在、部員は7名おり、全員が硬式野球部の部員たちです。

部長を務める下川原 巧輝くん(3年生)は、弁論大会を見て入部したいと思ったとのこと。「私は人前で話すことがあまり得意ではありませんでした。そこで、苦手克服のためにもやってみたいと思ったんです」。そんな時、野球部の先輩であり、弁論部でも活動していた先輩から誘われて入部しました。

人前で話すことは、度胸がつくことにつながります。そしてそれは、社会に出てからきっと役立つことでしょう。「話すということは、人に何かを伝えるということです。自分の気持ちをうまく相手に伝える力を、この部活動の中で学び、身に付けていきたいと思っています」。しかし、昨年の弁論大会では、野球の試合の時と同じくらい緊張し、発表中の記憶があまりないと笑う下川原くん。今年の目標は、なるべく原稿に目を落とさずに、観客の反応にも目を配りながら話すこと。そして、「相手にどうやったらうまく伝えられるのか学べると思うので、みなさんもぜひ経験してほしい」とアピールしてくれました。

「弁論大会は緊張したけど楽しかった」と話す下川原 巧輝くん。
商学科企業経営コース3年
(横浜創学館高校出身)

「後輩たちに「函大はいいところ」だと自信を持って言えるよう、誇りを持って行動したい」と話す林 魁人くん。
商学科企業経営コース4年
(横浜創学館高校出身)

BASEBALL 硬式野球部

互いに切磋琢磨し、負けない気持ちを大切に

昨年秋からキャプテンとして部員をまとめる林 魁人くん(4年生)。函大硬式野球部には、林くんの出身高校の先輩たちが多く在籍していたことから、それがひとつの決め手となって函大への進学を決めたそうです。そんな同部には全国から実力のある選手が入部してくるため、互いに切磋琢磨できる環境が大きいと話します。「部員みんなが練習に参加し、何事にも全員で取り組めるのもいいところです。監督、コーチとのコミュニケーションも密にとれるため、意思疎通がしっかりと図れます」。高校時代からは、どのポジションでも守れるように練習してきたという林くんは、大学でも内・外野どちらもこなし、アピールポイントはバッティングとか。「モットーは『負けない気持ちを持つこと』です。野球に真摯に取り組み、同じくらいの技量の人には負けたくないですね」と力強く話します。

選手と首脳陣である監督、コーチの間に入り、潤滑油のような役割を果たしながら、函大の選手であることに誇りを持って戦い続ける林くん。部活動の中では野球の技術向上を目指すだけでなく、礼儀やあいさつなど、社会人に必要なことも学びました。この経験を今後の人生にも生かしていきます。

互いに切磋琢磨しながら全国出場を目指す函大硬式野球部の部員たち。

函館大学硬式野球部HP http://kandai-bbc.jimdo.com

SOFT TENNIS 軟式庭球部

自ら考え、行動できる人間を育成できる指導を

今年春から軟式庭球部の新監督として、部員を指導している梅崎 巧さん。梅崎監督は本学および同部のOBであり、以前は青森県の高校の教員として高校生を指導していました。「当時、函大軟式庭球部とは一緒に合宿をしたり、高校での教え子が函大に進学するなど、いろいろと関わりを持たせてもらっていました」と梅崎監督。

ほとんどの部員にとって、テニスに一生懸命取り組めるのは大学までとなります。「技術面だけを磨くのは大学の部活動ではありません。社会人になる前の人間として成長してもらえるような指導をしていきたい」と持論を話します。梅崎監督が練習や大会での部員たちを見て感じたことは、メンタル面の弱さでした。「強い大学は、部員たちが自ら考え、悩んでやってきた過程を経て試合に臨んでいます。『こうなりたいから、これをする』と、自分で考えられる人になってもらいたい」と部員たちに注文をつけます。大学生である以上、第一に学業。それをしっかりした上でテニスの練習、そしてオフの日にはみんなで資格取得に向かって頑張る。「これからは部員一人ひとりが立てた目標に逃げずに向かい、進んでいってもらいたいですね」との期待を込めて、部員たちを指導していきます。

春の大会では男女とも昨年の順位を上回りました。

「函大らしいテニス部を残しつつ、新しい形を作っていきたい」と話す梅崎 巧監督。

函館大学軟式庭球部HP http://kandai-nantei.jimdo.com

CAMPUS REPORT

キャンパスリポート

**夢や目標に向かい、楽しく、
充実したキャンパスライフを送る
函館大学の学生の「いま」をお届けします。**

長期留学

語学の上達だけでなく、視野が広がりました

昨年3月から12月までの期間、オーストラリアに留学していたのは、英語国際コース3年生の佐藤 健志郎くん。元々、英語が好きで留学をしたいと考えていたことから函大に進学したそうです。「高校時代、英語の先生の教え方のおかげで英語力が伸びました。自分にとって、この先生との出会いが大きかったですね」。

佐藤くんが留学をしてみたいと思ったきっかけは、おばあさんが国際交流関係の仕事をしていたこと。小さい頃からその行事に参加し、外国人の方と会話をするのが楽しく思えたことから、自然と海外へ行ってみたいと思うようになりました。もちろん、応援してくれた両親の後押しも気持ちを前向きにさせてくれたそうです。

長期留学では、最初の3カ月間は語学学校で学び、その後は向こうの学生と一緒に大学の授業を受けます。総合大学であることから、授業は経済や歴史などさまざま。その中から自由に選んで勉強していくそうです。「最初は理解ができないことも多かったのですが、学んで行くにつれて、7割くらいは理解できるようになりました」と上達を実感しました。

また、学業以外ではホストファミリーとの生活も大きな思い出となっています。「ちょうど僕の親と同年代で、しかも性格も似ていました。すごく優しい人たちでした」と振り返ります。ホストファミリーや仲良くなった留学生とは、シドニー観光やブルーマウンテンに行ったりして楽しんでいたのだとか。

「大学ではクラブにも入りました。仲間とのクラブ活動も楽しかったです」と話す佐藤 健志郎くん。
商学科英語国際コース3年
（函大付属有斗高校出身）

留学から戻ってきた時には、考え方が変わったと話す佐藤くん。「標準は、その土地土地で異なります。視野が広がり、積極性も出てきましたね」。高校の教員を目指している佐藤くんは、将来的には海外でも働いてみたいと目を輝かせていました。

春季派遣留学

留学を経験し、上昇志向が強くなりました

「両親からも行かないで後悔するより、行ってみるほうがいいと言われ、留学を決心しました」と話す小山内 裕美さん。
商学科英語国際コース3年
（青森県立鶴田高校出身）

英語国際コース3年生の小山内 裕美さんは、今年2～3月にかけての6週間、オーストラリアへの春季派遣留学を体験してきました。高校生の時に本学の留学制度に興味を持ち、進学を決めたという小山内さんは、留学体験者の先輩方の話を聞き、「やっぱり行ってみたい」という気持ちが強くなったそうです。「英語力をもっと高めたい、そしていろんな国からの留学生と交流できるのが大きな魅力と思い、決心しました」。

各国から来た留学生とのふれあいも貴重な財産になります。

小山内さんが留学を経験して感じたことは、積極性の大切さでした。中国や韓国からの留学生は発言力があり、自己主張も強かったそうで、積極性の不足を実感したとのこと。「私はどちらかと言えば控えめな性格だったのですが、とにかく英語で話す習慣をつけようと思いました。分かる範囲の単語を使って、とにかく話してみる、という度胸がつきましたね」と笑います。

向こうでは韓国からの留学生と仲良くなり、その友達と遊んだのも良い思い出です。「オーストラリアは日中がすごく暑くて。海へ遊びに行ったのが深く印象に残っていて、とてもキレイでした。また、日本人の友達とシドニー観光をしたのも楽しかったですね」。

しかし、ホストファミリーとの生活では、最初は戸惑いもあったそうです。ホストは一人暮らしの60代のおばあさんで、「毎日、一対一でしたから、気持ち的にはちょっと厳しいところもありました（笑）。でも、生活や言葉に慣れてくるにつれ、コミュニケーションがとれるようになっていったので、後半は楽しかったですね。その方も優しく、親切な人でした」と感慨深げ。

留学の経験を生かし、今後はTOEICや英検を積極的に受けていきたいと話す小山内さんは、国際系のホテルで働くことが目標。上昇志向も強くなってきたそうで、英語力をフルに生かして社会で活躍することを誓います。

イベント実行委員会

イベントを楽しみながら、新たな出会いを

「参加者を集め、イベントを楽しんでいる姿を見た時は達成感がある」と話す久末 梨奈さん。
商学科企業経営コース3年
（函館商業高校出身）

イベント実行委員会では、学生たちが楽しいキャンパスライフを送るため、さまざまなイベントを企画・実施しています。現在、イベント実行委員会の委員長としてメンバーを引っ張る久末 梨奈さん（3年生）は、1年生の春から委員会メンバーのひとりとして奮闘してきました。「本学の事務職の方から『委員会に入らないか』と声をかけていただき、企画などを考えることが好きだったので入ることにしました」と話します。

同委員会が企画・実施しているのは、新入生に学内のことを知ってもらうための新入生歓迎イベントやクリスマスパーティー、さらには球技や玉入れなどを楽しむ体育大会など。「高校とは違い、近くの学生たちとしか関わりを持たないのが大学生なのかなと感じました。そこで学年問わず、みんなが関われる企画を考えたいと思っています」。

イベントに参加することにより、学年を超えた交流が生まれるのも大きな魅力です。

しかし、イベントを実施するに当たって、さまざまな問題点も感じているようです。例えば、自分たちが思うよりも参加者が集まらないこと。楽しいイベントを企画するだけでなく、告知方法などの工夫をしていくことも大切なことのようです。新たな出会いや交流の機会となることもイベント参加の大きな魅力。久末さんは、「これまでのイベントはすべて学内で行ってきましたが、今後は地域と協力した企画も考えていきたい」と意欲を見せていました。

CAMPUS REPORT
キャンパスリポート

世界学生ハンドボール選手権大会

函大ハンドボール部監督がチームリーダーに

今年6月にスペイン・マラガで開催された『世界学生ハンドボール選手権大会』において、本学ハンドボール部の松監督がチームリーダーとして選手団を引率しました。「過去、同大会には監督やコーチとして行きましたが、今回は若い監督やコーチの指導役です」と松監督。さらに同大会中は、国の代表として2020年東京オリンピックに向けて函館の会場をアピールするなど、ロビー外交も担いました。

「2020年東京オリンピックでは、函館でトップレベルの試合を見せたい」と話す松 喜美夫監督。

昨年のユニバーシアード競技大会でのハンドボール日本代表選手団。

昨年のユニバーシアード競技大会での日本代表は、予選で戦いを終えました。今回の選手たちは、東京オリンピックで中心になることを期待されているメンバーであることから、松監督は「世界のトップレベルの厳しさを経験する舞台。東京オリンピック前のテストマッチとして、この中から東京オリンピック出場を目指す選手に成長していってほしい」と期待を込めます。

また、スポーツで函館の街を盛り上げていきたいと話す松監督は、今年7月にスペインのナショナルチームで活躍する選手を函館に招き（主催：函館ハンドボール協会）、世界にふれる機会を演出。子どもたちに世界を知ってもらい、羽ばたいてもらうことを願います。

函館大学ハンドボール部FB　https://www.facebook.com/kandaihand

アジアマーケティング研修会

先へと目を向けられる人材育成を目指して

学内から選抜された学生6名で編成され、実践的な教育プランのひとつとして、昨年12月にスタートしたアジアマーケティング研修会のプログラム。この夏には、その成果を発表する報告会を行う予定になっています。

同プログラムの大きな目的は、海外との往来が盛んになってきた現代社会にあって、そこに先んじて目を向けられるような人材の育成を図ること。「今回は函館スイーツにスポットを当て、道内で海外進出している企業さんを取材したり、その商品が流通している海外での実態調査などを行いました」と話すのは、同プログラムのコーディネーターを務めている高橋さんです。自身も本学の卒業生であり、仕事の関係で海外へ行くことも多いという高橋さんは、プロジェクトを担当した本学の角田専任講師を陰で支えています。「角田講師のご指導のおかげで、学生たちも一生懸命頑張れたと思います。学生たちが次のステップへと進むための良い経験になったのではないでしょうか」と振り返ります。

「香港へ行った時はスケジュールがビッシリで、学生たちも海外へ行った気がしないと言っていました」と笑う高橋さん。

やり遂げたことは学生たちにとって自信となり、今後の就職活動においても、この実績は武器となるはずです。本年度は新たなプロジェクトに取り組む予定で、「学生はプログラムにどんどんチャレンジして、前へ進むきっかけにしてほしい」と、高橋さんは学生たちに期待を寄せています。

香港では商社、小売店を訪れたほか、香港大学では商品について学生たちの声も聞いてきました。

新任教員紹介

学生にとって、教員との出会いが自分の将来を決めることにつながることも少なくありません。
新たに函館大学の教壇に立った教員たち。この先生たちは本学でどのような出会いを生んでくれるのでしょうか。

高橋 伸二 専任講師

自身のビジネス経験を生かし、考えさせる授業を

高橋先生は、今年4月から函館大学の教壇に立ち、国際マーケティング論やビジネス英語などを教えています。驚かされたのは、先生のこれまでの経歴です。土木工学に始まり、英語や貿易、さらには国際ビジネスなど、さまざまな分野にチャレンジしてきました。「企業に就職してから大学へ入り直したり、大学の後期博士課程を受けたり、『これが必要』と思うと行動してしまうんです。往生際が悪いんですね」と笑います。

そんな高橋先生は、自身のビジネス経験も授業に生かします。「経験談を話すことにより、さらに理解が深まると思います。もちろん、学問ですから、それだけでは授業になりませんが」と高橋先生。また、学生たちが受け身ではなく、能動的な学びができるように導いていきたいと話します。さらに国際交流委員長も任されている高橋先生は、海外の大学との交流にも力を注いでいきます。

角田（つのだ） 美知江 専任講師

産学連携の架け橋にもなりたい

昨年4月から非常勤講師、そして同7月から常勤の専任講師となった角田先生は、食品会社で商品開発や品質管理の仕事を長きに渡って経験してきました。さらに企業で働きながら大学に入り直し、大学院も卒業。「大学へ通っているうちに勉強が楽しくなってきて、気がついたらここへ来ていました」と笑います。

企業では研究職プラス新入社員の教育にも携わってきたことから、「教えること」を自然と身に付けていきました。本学ではマーケティング総論や流通論など、マーケティング関連科目を担当し、「企業は時代が変わると考え方も変わります。マーケティングは不変の理論ではないことから、学生たちには覚えるのではなく、考える姿勢を身に付けてもらいたいですね」。本学の学生の印象を「素直でかわいい」と話す角田先生は、産学連携の架け橋ともなれるよう、自身のキャリアを最大限に生かしていきます。

阿部 ジョスリン 専任講師

自信を持ち、自分からアクションを起こして

カナダ出身のジョスリン先生は、本学の教員として今年で3年目を迎えました。以前は函館にある英会話学校の講師として働き、子どもから大人まで教えていました。「これまで大学生に教えたことは少なかったので、大学講師には興味がありました。縁あって本学で教えることになり、楽しい日々を過ごしています」と目を輝かせます。

そんなジョスリン先生は、face to face、コミュニケーションを一番大切にして授業を行っています。学年が上がるにつれ、レベルがどのくらい上がっているのかを知るのが楽しみ。「日本人はちょっと自信がないと『自分は英語が話せない』と答えます。もっと自分に自信を持ってもらいたい」と学生たちに注文を付けながらも、学生たちの成長を温かく見守っています。

平成28年度の公開講座

教養講座・授業公開講座のほか、北海道新幹線関連講座も開催

公開講座実施委員会 委員長
准教授 大橋 美幸

北海道新幹線開業にともなって新幹線連続講座を行いました。函館市と、新幹線駅ができた北斗市・木古内町、車両基地ができた七飯町の自治体担当者の話を聞きました。3回目は、新幹線並行在来線を移管された「道南いさりび鉄道」のお話でした。

教養講座は高齢者のための学び直し講座を行っています。春期はTPPについて、生活や北海道の農林水産業への影響等を学びました。合わせて、高度経済成長期を振り返り、経済用語と経済の見方を学びました。秋期は函館の歴史、ドラマから学ぶ経営学の話です。もちろん高齢者以外の方も参加していただけます。

通常の大学授業を市民に無料で公開している授業公開講座は3科目です。「簿記原理」はこれまで全く簿記を学んだことがない人が対象です。商業簿記を中心に複式簿記の基本的仕組みを学びます。「社会学」はグローバリゼーションの暮らしへの影響と課題について、食べ物と農業を通じて学びます。「社会福祉論」は大学サテライトの夏期集中で福祉先進国スウェーデンについて学びます。いずれもどなたでも参加していただけます。

また、函館新聞で毎月第1金曜日に「函館大学講座」を連載しております。7月から12月のシリーズは「人口減少社会」です。都市経済学、経営学、ICT等の観点から、教員がリレーで執筆しています。

平成27年度 学校法人野又学園 決算書 （単位：千円）

資金収支計算書（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）

資金収入の部 科目	金額	資金支出の部 科目	金額
学生生徒等納付金収入	1,312,878	人件費支出	1,332,697
手数料収入	29,452	教育研究経費支出	453,325
寄付金収入	14,566	管理経費支出	178,767
補助金収入	791,383	借入金等利息支出	2,576
資産売却収入	191	借入金等返済支出	54,264
付随事業・収益事業収入	135,131	施設関係支出	277,362
受取利息・配当金収入	61,520	設備関係支出	26,119
雑収入	41,374	資産運用支出	263,600
前受金収入	273,656	その他の支出	182,964
その他の収入	377,726	資金支出調整勘定	△55,276
資金収入調整勘定	△315,127	次年度繰越支払資金	334,308
前年度繰越支払資金	327,956		
資金収入の部合計	3,050,706	資金支出の部合計	3,050,706

事業活動収支計算書（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）

区分			科目	金額
教育活動収支	教育活動収入		学生生徒等納付金	1,312,878
			手数料	29,452
			寄付金	14,566
			経常費等補助金	791,383
			付随事業収入	80,265
			雑収入	41,374
			教育活動収入計	2,269,918
	教育活動支出		人件費	1,340,415
			（退職給与引当金繰入額）	(9,710)
			教育研究経費	674,302
			（内減価償却額）	△220,977
			管理経費	230,762
			（内減価償却額）	△51,995
			徴収不能額等	1,054
			教育活動支出計	2,246,533
	教育活動収支差額			23,385
教育活動外収支	教育活動外収入		受取利息・配当金	61,520
			その他の教育活動外収入	54,866
			教育活動外収入計	116,386
	教育活動外支出		借入金等利息	2,576
			教育活動外支出計	2,576
	教育活動外収支差額			113,810
経常収支差額				137,195
特別収支	特別収支支出		資産処分差額	4,226
			特別支出計	4,226
	特別収支差額			△4,226
基本金組入前当年度収支差額				132,969
基本金組入額合計				△348,220
当年度収支差額				△215,251
前年度繰越収支差額				71,927
基本金取崩額				27,328
翌年度繰越収支差額				△115,996
（参考）				
事業活動収入計				2,386,304
事業活動支出計				2,253,335

貸借対照表（平成28年3月31日現在）

資産の部 科目	金額	負債の部 科目	金額
固定資産	15,365,439	固定負債	638,595
有形固定資産	(9,208,815)	流動負債	373,994
特定資産	(5,073,272)	負債の部合計	1,012,589
その他の固定資産	(1,083,352)	純資産の部 科目	金額
流動資産	431,103	基本金	14,899,949
		繰越収支差額	△115,996
		純資産の部合計	14,783,953
資産の部合計	15,796,542	負債及び純資産の部合計	15,796,542

北海道新幹線連続講座

自治体から見た新幹線開業効果

- 6月23日（木）14:50～16:20
  北斗市総務部企画課、七飯町総務部政策推進課
- 6月30日（木）14:50～16:20
  函館市新幹線対策室、木古内町まちづくり新幹線課

新幹線開業後の道南の新しい動き

- 7月7日（木）14:50～16:20
  道南いさりび鉄道株式会社

教養講座：高齢者のための学び直し講座

《春期》

- 第1回　5月21日（土）10:00～12:00
  「TPPを再考する　ー地域再生とTPPー」　講師：田部井英夫
- 第2回　5月28日（土）10:00～12:00
  「戦後日本経済の歩みから学び直す『経済の見方』」　講師：寺田隆至

《秋期》

- 第1回　11月5日（土）13:30～15:30
  「箱館・夢のまち」　講師：小林裕幸
- 第2回　11月26日（土）10:00～12:00
  「ドラマに見る経営学」　講師：井上祐輔

授業公開講座

- 「簿記原理Ⅰ・Ⅱ」4月15日（金）～1月31日（火）
  金曜/10:40～12:10、火曜/9:00～10:30（全30回）
  講師：片山郁夫
- 「社会福祉論」9月15日（木）、16日（金）、17日（土）、18日（日）
  9:00～16:20（全16回）　講師：大橋美幸
- 「社会学」9月26日（月）～1月23日（月）
  月曜/13:10～14:40（全12回）　講師：大橋美幸

函館新聞紙上公開講座

- 毎月第1金曜日に函館新聞の紙面で連載しています
  7月～12月はシリーズ「人口減少社会」

授業アラカルト

『経営学総論』

専任講師 **井上 祐輔** 先生

学問を知ってもらうだけでなく、自分で調べる積極性を引き出す。

関西・神戸出身の井上祐輔先生は、大学・大学院で政策科学や経営組織論などを学び、京都外国語大学や同大の附属短大、専門学校などで講師を務め、昨年春から函館大学の教壇に立っています。経営組織論や経営戦略論など経営学全般のほか、商学実習も担当する中、今回は『経営学総論』をピックアップしました。

「関西の学生に比べると、ここの学生は素朴な印象かな」と話す井上先生。

井上先生の専門は経営組織論。この学問は、組織の中、あるいは他組織や政府などとの関係において生じる現象を対象としています。「経営学とは、悪い言い方をすれば雑多な学問の寄せ集めに近い学問。その理由は、経営学は経営に関する現象を説明する応用学問であり、心理学と社会学、そして経済学という基礎学問のうち、どれを使うかで異なる説明をするからです。ですので幅広い基礎学問からどのような分析の視点をとるのかを選択することが基本的なスタイルになります」と井上先生。

『経営学総論』は1年生の必修科目であり、前期の半年間をかけて学んでいきます。総論であることから、その内容は経営学全般について「組織と戦略の話をメインに、主要な概念や論理にふれ、2年生で受講する経営組織論や経営戦略論へとつなげます」。

授業を行う上で井上先生がポリシーとしていることは、できる限り幅広い知識を学生たちに教えていくこと。それは、経営学がマネジメントジャングルと例えられ、体系立った説明ができる枠組みを持っていないからなのだとか。「体系であれば、まず幹を教え、それから枝葉へと展開できます。しかし、経営学はそれがうまく分かれていないため、幅広く教えることになるんです」。そんな井上先生が工夫していることは、学生たちから自分で調べる積極性を引き出すために、「毎回、テキストにできる限り沿う課題を出すようにしています。調べることで興味を持ち、さらにそこから掘り下げていこうという気持ちが生まれてくれたら嬉しいですね」と、課題を出す目的を話します。そして、まずは疑問を持ち、学生たちにはその疑問に向かう姿勢を身に付けてもらいたいと期待しています。

経営学の入門編となる『経営学総論』。

また、授業ではスライドを使って話を進めていきますが、これも考えがあってのこと。「スライドは次々に画面が切り替わります。ノートをとる力をつけるには、何が自分に必要かを考えることが大切。その力をつけてほしい」と井上先生。その授業スタイルには、いくつもの意図が隠されていました。